

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年12月28日
タイトル	くわい料理でk-1グランプリをしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年12月3日（木）福山市立新涯小学校5年3組の子ども約35名が新涯小学校で栽培した「くわい」を使って調理実習をしたので、その様子を取材しました。

新涯小学校5年生は、一年を通じて、地域の特産物である「くわい」についての学習に取り組んでおられ、出前授業やくわい農家のほ場での植付け体験、校庭のミニ田んぼで栽培、ほ場の収穫見学、校庭の「くわい」の収穫をしてまいりました。

今回の調理実習は、子ども達が考えたレシピの中から早く簡単に作れるものを4つ選び料理し、それを食べ比べて投票し一位を決める「k-1グランプリ」をすることとなりました。

子ども達は、家庭科室に移動しエプロンと布巾をつけて調理に臨みます。8班に分かれ、2班ずつ「くわいトースト」「くわいチップス&からあげ」「くわい団子」「くわいのベーコン巻」を作りました。



くわいトーストの班は、まず茹でたくわいを包丁で薄くスライスし、パンにピザソースをぬり、スライスしたくわいととろけるチーズをのせ、バターをとかしたフライパンに入れ弱火で焼きます。くわいをスライスする子やパンに丁寧にくわいとチーズをのせる子、フライパンに入れて火が通ってチーズがとろけるのをじっと待つ子とみんな真剣な表情で調理していました。出来上がるとチーズのいい香りがして、とてもおいしそうでした。



くわいチップス&からあげの班は、丁寧に洗って大きさを分け、大きなくわいはチップスに小さなくわいはからあげにしました。包丁でなるべく薄くスライスし、水気をよく取り、油をよく熱して揚げています。揚げているとくわいがはじけて油が散り、子ども達が「わあー」と言って飛んで逃げていました。味付けは塩、コンソメ、カレーの3種類で色とりどりでした。



くわいの団子の班は、白玉粉をこねて一口大にまるめて、その中に茹でたくわいを入れます。くわいの芽を出すのがポイントです。団子の生地がやわらかくなって、団子に丸めるのが難しいようでした。

まるめた団子は、茹でて水気をとったら、きな粉と大学芋のたれで味付けしました。

きな粉と砂糖を1対1の割合にすることを知ると、砂糖を沢山使っていることにびっくりしたようでした。

自分で作ることによって砂糖がどれくらい含まれているか知ることができ、いい体験だなと思いました。

できあがりは、和菓子そのものでした。

くわいのベーコン巻の班は、茹でたくわいを適当な大きさに切ってベーコンで巻き爪楊枝でとめます。

フライパンを熱し油を少量入れて、ベーコン巻を入れて焼きます。焼目がついたら塩コショウで味付けをしました。

子ども達は、ベーコンを巻いているとくわいが飛び出したり、ベーコンが破れたりと苦労していたようです。

焼目がついてくると、香ばしい香りがして、とてもおいしそうでした。



みんな協力して調理し、手が空いた子は包丁やまな板を洗って片付けたり、ゴミを捨てたりと、調理が終わるころには調理台もほぼ片付いていました。

料理が出来上がると、一人ずつお皿にそれぞれ4種類の料理を取り分けます。みんな取り分けたら、日直が合掌して一緒にいただきました。

一位を決めるので、しっかり味わって食べました。くわいトーストは、簡単でシンプルな材料ですが、チーズの香りがよく、くわい独特の苦みがほのかにしてとてもおいしかったです。

くわいチップス&からあげは、とても上手に揚げてあって、チップスがパリッとしていて、びっくりしました。味付けもコンソメとカレーは初めて食べましたが、市販の粉を振るだけで簡単で、味のアクセントになってとてもおいしかったです。



くわい団子は、ホクホクした歯応えとほのかな苦みのくわいの特長がでていて、芽が出ているところが和菓子のようで、歯応えを楽しめるおいしいお菓子にできていました。

くわいのベーコン巻は、ありそうでなかったレシピだなと思いました。ベーコンのうまみとくわいのホクホクした歯応えがマッチして焼いた時の香りも食欲をそそり、おいしかったです。



できたあがった料理は、くわい  
実行委員さんが職員室へ運び、  
先生方にも試食していただき、  
グランプリに参加して投票しても  
もらいました。  
どれが一位になるのか、楽しみ  
ですね。

私が一位に選んだのは、くわいのベーコン巻です。どれもとてもおいしくて悩んだのですが、ありそうでなかったレシピで簡単ですぐ家で作ってみようと思ったのが決め手でした。みんなで投票した結果がどうなるのか楽しみです。

今年度、新涯小学校では、ほ場でくわいの植付け体験と校庭のミニたんぼへ植付け、収穫といった昔ながらの手作業による「くわい」栽培の農業体験をしました。この体験を通じて、地域の農業、特産物や伝統にふれ、ふる里を誇りに思う気持ちや大切に守っていききたいという思いが芽生えたのではないのでしょうか。

水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の取材を通して、21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。

※ 後日、k-1グランプリの結果をお聞きしたところ、くわいトーストが一位だったそうです。おいしかったので納得です。どのレシピもとてもおいしく手軽につくれるので、家庭でも作って家族みんなで「くわい」を楽しんでいただきたいです。